

大学におけるスポーツマネジメント学科及びコースの設置と課題

トップスポーツマネジメントコース

5011A304-4 井上義浩

研究指導教員：平田 竹男 教授

【Ⅰ. 序論】

筆者は、朝日大学入試広報課に職員として勤務し、学生募集及び体育会（強化指定クラブ）支援を担当している。また、体育会バレーボール部の監督として、チームの運営と強化を行なっている。体育、スポーツ系の学部、学科を持たない朝日大学が体育会の設立とスポーツマネジメントコースの設置で、少なからずとも大学の知名度をあげ、入学者数が増加したことについて整理し、今後競合となり得る同様な形態の大学（体育、スポーツ系学部、学科を持たない）におけるスポーツマネジメントコースの現状について興味を持ち論文作成の動機となった。

近年、日本のスポーツ界がビジネスとして大きく発展する中で、スポーツ界で活躍する人材の育成が求められるとともに、スポーツ界で働くことを目指す学生が増加し、スポーツを学ぶことのできる大学の需要が増加している。スポーツの強化だけではなくスポーツ系の学部や学科・コースを新設したり、カリキュラムを導入したりするなど、新たにスポーツに関する教育の場を設置する動きもある。しかし、スポーツ系の学部を設置する際には、定員や教員の確保など依然として様々な規制があった。

先行研究として、大学における体育及びスポーツを学ぼうとする学生の需要と教育の供給の変遷に関する研究などがあったが、

日本の全国公私立大学を対象とし、スポーツ・体育の学部、学科を設置しない大学全てを対象にした研究存在しなかった。

そこで本研究では、スポーツ系及び体育系の学部を持たず、スポーツマネジメント系の学科及びコースを設置している大学の現状を明らかにすることを目的とした。

【Ⅱ. 研究手法】

本研究の目的を達成するため、(1) スポーツ系大学及び体育大学、あるいはスポーツ系及び体育系学部以外でスポーツ系の学問を学べる大学の抽出、(2) 充足率、財務データスポーツ強化、教職課程（保健体育）の設置、カリキュラム、所属教員、という項目で抽出大学の評価、(3)抽出大学の分類、(4)朝日大学の事例検証という4つの手法を行った。

【Ⅲ. 研究結果】

大学名及び学部名に「スポーツ」及び「体育」、「武道」を含まず、学科名及びコース名に「スポーツ」を含み、かつ「マネジメント」あるいは「ビジネス」という言葉を含む大学は以下の38大学であった。

所属教員の最終学歴で最も多いのは修士で45%であることが分かった。次いで多いのは博士で35%であった。学士は20%であることが分かった。また、最終学歴が短期大学士や高卒がいることもわかった。「スポーツ」及び、「体育」を含む学位を取得している教員の中で、「体育学士」が最も多く、

32人であることが分かった。また、最終学歴が学士であるのは体育学のみであった。

朝日大学の事例検証からの知見は以下のとおりである。2002年に設立した体育会は順調に始まったが、その競技力の向上の一方で朝日大学の志願者数が徐々に落ち込んでいた。その背景には、体育・スポーツを専門とする学部とは異なり、経営学部などでは体育会学生が大学の勉強とスポーツの両立に苦心しているということがあった。志願者数の落ち込みや体育会学生のスポーツと勉強の両立が困難であるということを経験した大学は、その改善策として、2007年に経営学部ビジネス企画学科スポーツマネジメントコースを設置した。

【IV. 考察】

「体育」・「スポーツ」・「武道」を大学・学部の名称に含まないスポーツマネジメント系学科・コースについては、以下のことがわかった。

第一にスポーツマネジメント系学科・コースは増加しているということである。つまり、大学でスポーツを学ぼうとする学生の需要も増加しているということが考えられる。次に、所属教員については、経営学と経済学専門の教員が多く、体育学士が大半を占めることがわかったため、スポーツマネジメントなど専門的な学位を持つ教員が必要であるという示唆を得た。

大学における教育は、人格の形成でありスポーツ学生においてもスポーツ経験と知識及び教養の習得による人格の育成が大切な事であり、大学がスポーツ強化を行う真の目的は、大学を象徴する人材として広く世間にアピールできることであり、大学教育の成果を選手の活動を通じて発信できる

ことを目指すことであると考えられる。そのために必要なこととしてスポーツ種目の強化やスポーツマネジメント学科、コースも科目内容の充実および専門性の高い教員による教育が必要であると考えられる。

そして、スポーツマネジメント系の学問を学ぶ学生が増加することは、日本のスポーツマネジメントの発展にも繋がると考えられる。以上をもとに、既存の体育・スポーツ・武道を大学名及び学部名に含まないスポーツマネジメント系学科・コースを持つ大学や、あるいは、今後こうした学科及びコースの設置を考えている大学は、以下のことを考慮する必要があると考える。

大学でスポーツを学ぼうとする学生の需要の増加に対して、スポーツマネジメント系を専門分野とする習熟度の高い教員を集め、その教員による教科科目を設置することで、より質の高い教育の提供する事が重要になってくる。そして、スポーツ推薦入試の効果的な実施によるスポーツの強化に結びつけることで、スポーツマネジメント系の学問を学ぶ学生を増加させる必要がある。そうしていくことで、今後、スポーツマネジメントコースから排出される人材が高い専門性と競技力を持つことになり、日本のスポーツ産業学の発展に繋がり、強い日本は、日本のスポーツ文化の発展に寄与していくと考えられる。

【V. 結論】

本研究の意義として、スポーツマネジメント系の学科及びコース設置大学の現状を明らかにすることで、今後、スポーツマネジメント系の学科及びコースを設置する大学にとっての留意点及び各指標として貢献できると考える。